

生ごみ、剪定枝や草のごみ減量について

☎環境政策課廃棄物対策係(☎内線1881)

生ごみは多くの水分を含んでいます

生ごみは水分を多く含むため重量があり、腐敗すると悪臭を発生します。生ごみの水分量は70～80%と言われています。

生ごみの水切りをすると悪臭を防止できるほか、ごみの容量が減り、ごみ袋(市指定袋)の枚数を減らし、サイズを小さくできます。

【生ごみの減量方法】

生ごみにしない ～生ごみを出さない工夫をしましょう～

- 買物に行く前に冷蔵庫の中を確認する
- 食べる量を考えて献立を決める
- 冷蔵庫の中にあるものだけで料理する日を作る

ぬらさない ～無駄にぬらしていませんか?～

- 基本は「最初からぬらさない」ことです。野菜などは使えない部分をはじめに分けてから洗いましょう

水切りをする ～悪臭・腐敗防止にもなります～

- ゴム手袋を使用して直接水切りする
- すぐに捨てずに三角コーナーなどに入れ、一晩おいてから捨てる
- 市販の水切りグッズなどを活用する



【生ごみの水切り器を無料で配布しています】

安中市環境保健自治団体連合会では、生ごみの水切り器を市在住の世帯を対象に無料で配布しています。希望する人は環自連事務局(☎内環境政策課または松井田振興課)までお越しください。なお、数に限りがありますので、ご了承ください。



剪定枝や草も多くの水分を含んでいます

「剪定枝」や「草」を乾燥させるだけでも、15～60%もの減量になると言われています。

水分を多く含んでいると、焼却時に多くのエネルギーが必要となり、処理経費も余分にかかります。



▲袋を開けて乾燥させている様子



▲乾燥前の草



▲乾燥後の草

【剪定枝や草の減量方法】

- 剪定枝や草は、すぐに出さずに土を落として乾燥させましょう
- 天日干しできない場合でも、袋を縛らず開けておくだけで減量できます

【剪定枝をごみステーションに出す場合】

長さ50cm以下、太さ5cm以下のものはごみ袋(市指定袋)に入れるか、困難な場合は袋に入る程度の量でしぼり、ごみ袋(市指定袋)を貼り付ければごみステーションで回収できます。(一度に大袋5袋まで)

長さ50cm、太さ5cmをこえるものは粗大ごみ扱いとなりますので、碓氷川クリーンセンターへ直接、持ち込んでください。

※処理料金：総重量から50kgを差し引いた重量10kgにつき165円(税込み)(50kgまで無料)



▲市指定袋の貼り付け方